

「柏崎の橋」 64 ^{ふどう}不動橋（谷根）

不動橋は、川内ダムから六拡トンネルを越え、谷根地区の集落に入る手前の、県道田屋青海川停車場線及び小俣川にかかる、昭和58年に新設された橋である。

このルートは、毎年5月に開催される潮風マラソンのウォークの部のコースにもなっており、高低差のある風光明媚な景観を楽しませてくれる。

不動橋から小俣川の上流100mほどには、不動滝（ソフィアだより159号に掲載）がある。

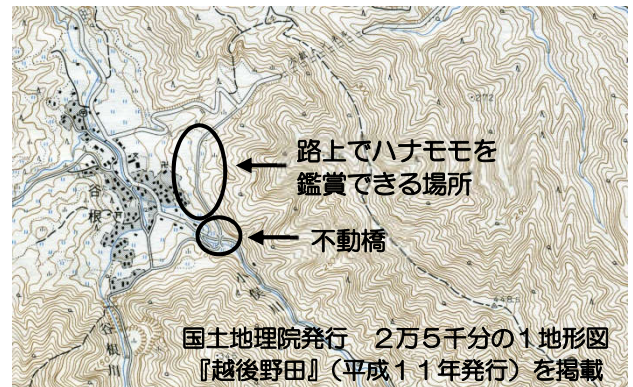
谷根地区では、昭和48年の谷根ダム（米山湖）竣工後も、国道8号に通じる道は、右記参考資料の谷根地図に見られるように、県道田屋青海川停車場線の1本しかなかったため、川内地区へ通じる道を開いて災害等に備えたいというのが谷根地区の長年の要望であった。

平成元年竣工の赤岩ダム建設を契機として、六拡トンネル（この名前は柏崎市上水道第六次拡張計画に由来する）が2車線道路として昭和60年に開通し、谷根地区の希望が実現した。

これに合わせて、川内ダムから六拡トンネルを



谷根集落から不動橋を望む。
（ハナモモは中央電柱の右側）



所付近で谷根川に達する市道柏崎15-25号線と、六拡トンネルの谷根側出口から200m余り先で左側に進み、不動橋を渡る市道柏崎15-26号線が新たに開かれた。

また県道田屋青海川停車場線の拡幅も、長年懸案となっていたが、赤岩ダム建設工事に伴って昭和58～59年に施工された。

六拡トンネルは本来、赤岩ダムの水を赤坂山浄水場まで引くための導水管を通すためのものだったが、谷根地区の要望を実現するために長さ435m、総工費8億円余りのトンネルとなった。

六拡トンネルから不動橋に至るまでの下りの道沿いは、近年ハナモモの名所として知られるようになった。20年ほど前から地区民が植樹を始め、現在は500本ほどの規模になっている。4～5月の開花期には多くの観光客が訪れており、今年
は新潟日報、柏崎日報でも紹介された。

●参考資料

- 『谷根の夜語り』（292 ツキ）月橋会著
- 『谷根 水への決意』（292 Kカス）柏崎市ガス水道局編
- 『赤岩ダム工事誌』（518 Kカス）柏崎市ガス水道局編
- 『ふるさと鯨波』（224 クシ）
鯨波公民館・鯨波地区コミュニティ振興協議会編
- 『谷根地図』（292 タン）
- 越後タイムス昭和60年12月1日付け2面
- 新潟日報平成28年4月17日付け13面
- 柏崎日報平成28年4月20日付け2面